

地域おこし協力隊として、復興関係業務などを担当している市村です。私は現在、黒川地区の旧長陽西部小学校の「震災伝承館 轍WADACHI」で震災ガイドの仕事をしています。私が地域おこし協力隊として南阿蘇に赴任し、現在ガイドをさせていただいているきっかけとなったのは、2016年4月16日に発生した熊本地震です。

私の出身は大阪府です。南阿蘇村との繋がりは2009年に東海大学農学部に入学したことから始まりました。そして2013年に大学を卒業し、熊本を離れ東北に就職しました。熊本地震が発生した当時私は東北におり、地震の被害をテレビで見えており、私が4年間の大学生活を過ごした村の変わり果てた姿を映像で見た時は、あまりのショックに言葉を失ったと同時に、今こそ大人になった自分が村の為に恩返しする時が来たのだと思いました。しかし、地震発生後も村に帰ることができず、村のために何かをすることもできずに5年が経ち、これ以上は後悔をしたくないと思い、昨年の2月に東北での前職を辞めて、地域おこし協力隊として村に赴任しました。

私は熊本地震を経験していないので最初はガイドの仕事に抵抗がありましたが、知らない事を聞き、勉強していくなかで、地震を経験していない私でも私なりの工夫した伝え方をしていけば地震の事を後世に伝えていくことが出来ると思い頑張っています。

※現在「震災伝承館 轍WADACHI」は、工事のため閉館しています（1月から3月末まで）。4月から再開予定です。



なんでも 南部分署

年始のごあいさつ

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。

住民の皆さまには、清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃から南部分署の消防業務に対しましてご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

現在も、新型コロナウイルス感染症の変異株により感染状況が著しく変化する中で、住民の方々は感染防止対策を講じながらの不安な日々を送られていることと存じます。私共消防も感染対策を講じながら、災害現場での活動を行っているところです。

昨年を振り返りますと、熊本地震で崩落した阿蘇大橋が約5年ぶりに「新阿蘇大橋」として開通し、観光名所となり、テレビやラジオなどのメディアで大きく放送されました。併せて、そのアクセスの良さと南阿蘇の魅力も伝えられたことから、観光客も増えて行き、熊本地震から



の復興と活気ある南阿蘇を感じる事の出来た1年でした。一方、火災や救急などの出場件数においては、昨年11月末時点で、令和2年分を超える出場件数となり、私共の消防の重要性和職責の重さを改めて認識致したところです。

終わりになりますが、本年は災害のないことを望みますとともに、地域住民の安心安全と信頼される消防業務を目指し、南部分署職員一同これまで以上、職務に邁進して行く所存です。今後とも、皆さま方のご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い致します。

本年が、皆さま方の更なる飛躍の年になることを心からお祈り申し上げ新年のあいさつと致します。

阿蘇広域行政事務組合消防本部 南部分署
分署長 芹口 正典

令和3年南部分署管内火災・救急出場件数

令和3年11月末時点における年内の南部分署管内における火災・救急件数をお伝えします。

南阿蘇村 火災…10件(13件) 救急…521件(449件)

高森町 火災…7件(8件) 救急…245件(220件) ※()内は令和2年の出場件数